

平成 29 年 3 月 25 日 (土)、海上の森ミニセミナー第 8 回「ギフチョウってどこまで飛べるの？」が開催されました。50 名を超える方々に参加していただき、会場の研修室は追加で準備した椅子もすべて埋まるほど、文字通り「満席」となりました。

・第一部

「海上の森自然環境保全地域におけるギフチョウの保全活動について」

話題提供者：愛知県環境部自然環境課 神尾慶一



ギフチョウは里山のシンボルである。海上の森自然環境保全地域(万博の翌年に指定、東海丘陵要素植物、ギフチョウ、ホトケドジョウなどが生息)においてギフチョウは近年激減しており、平成 10 年には成虫 13 頭・40 卵塊を確認することができたが、平成 27 年には成虫 1 頭のみしか確認されていない。

現状としてギフチョウの生息環境が劣化しており、森林の過密化により樹冠のうっ閉や常緑広葉樹の侵入、ササ類等下層植生の繁茂により、ギフチョウの飛翔空間が減少し、産卵場所や食草のカンアオイが減少し、吸蜜植物も減少している。

これらの対応策として、落葉広葉樹の受光伐、常緑広葉樹等侵入木の除伐、ササ類等下層植生の刈り取りを行い、日照条件の改善、飛翔空間の確保を行う。

この取組みは、請負工事と協働により実施し、請負業者による森林整備工事(受光伐、除伐、ササ刈)と開空度・カンアオイ生育調査、専門家・NPO 団体による希少種等保残木及び伐倒木の選木・技術指導、東部丘陵生態系ネットワーク協議会員や NPO 団体・他地域の大学生や企業・行政などによる森林整備協働(ササ・除伐木の整理・片付け・伐採木の搬出、ギフチョウ等里山保全学習会、計 5 回)がそれぞれ連携して行われた。

また、平成 29 年度には林地残材の搬出・薪割り、ササ類の刈り払い、除伐木の整理を予定している。

里山を保全することにより、人と自然が共生する愛知固有の生態系を保全することにつながり、それが地球上の生物多様性に貢献することにつながる。それは、ここにいる皆さんにしかできないことである。